

ダイヤのリング

高校の地学の授業で日食の話をするときには、いつもこんな風に始めています。

「もう15年ほど前の話になりましたが、時任三郎という芸能人の婚約発表の記者会見で、『エンゲージリングを見せてください』と言われて差し出した薬指には輪ゴムが巻きつけてあるだけでした。実は、ほくも婚約指輪は買っていない。宝石の所有より、心に残る思い出を共有するほうが価値があると思っていたからです。ほくは『婚約指輪は買わないけれど、空に輝くダイヤモンドと一緒に見に行こう』と言いました。ほくはずっと前から自分が結婚する人と一緒に、一生に一度でも見ることができれば幸せだと言われている、皆既日食のときだけに起こる『ダイヤモンドリング』という現象を見るのが夢だったのです。」

日食の奇跡

大きいけど遠くにある太陽と、小さいけど近くにある月が、地球

から見ると奇跡的なほど同じくらい大きさに見えています。でも、地球の軌道も月の軌道も少し楕円軌道なので、太陽や月と地球の距離は常に少しずつ変化しています。だからほんの少しだけ、太陽のほうが大きいときと月のほうが大きいときがあります。

太陽のほうがほんの少し大きくなっていくときに月が完全に重なっても隠しきれずに、太陽の周囲だけがはみ出ます。これは「金環日食」といいます。あくまでも太陽の一部を隠しているだけなので、完全な日食ではありません。ところが、太陽のほうがほんの少し小さくなっていくときに月が完全に重なる、太陽は完全に隠されてしまい、昼間なのに急に暗くなって、何が起こったのかと多くの人が空を見上げることになり

空に浮かぶダイヤモンド

〜本当に価値のある大切なもの〜

も買って、日食も連れて行ってあげたらいいのに」という類のものが多く感じています。

奇跡の価値

そして、99年になってほくは約東通り「フランスに見に行こうか」と声をかけましたが、「子どもはまだ小さいし、もう私はいいわ。お父さんは見たかったら旅費は気にせずに行ってきたら」と言われてしまいました。それでは妻にダイヤモンドリングを見せてあげたいという夢が叶わないし、クラブ活動の付き添いの忙しさもあって、結局ほくも行くのをやめてしまいました。

ほくたち夫婦は星子(せいこ)と名付けた長女を出産時の医療事故で亡くし裁判を経験しました。2000年12月は長女の10回目の祥月命日でしたが、裁判の勝訴確定を受けてほくたちは、被告だった病院の職員研修で、今後同じような被害が繰り返されないことを願って、講演をしました。その日の夜は双子座流星群の日だったので、ほくたちは寝袋を持って観測

ます。それが、歴史上人類を驚かせ続けてきた「皆既日食」です。この皆既日食の始めと終わりの数秒間に、ダイヤモンドリング現象を見ることが出来ます。

ハワイ島の雲

太陽が少しずつ月に隠されていく、さあよいよ完全に消えてなくなると思った瞬間、最後の一点からまるでダイヤのように閃光が出ます。完全に隠したつもりが、月の表面のクレーターから光がもれて輝くのです。さらに、普段は太陽本体の光が強過ぎて見えない「コロナ」(※)が月の周囲にリング状に浮かび上がります。これらが合わさったものが、空に浮かぶダイヤモンドリングの正体です。

皆既日食は滅多に起こりませんが、また、起こるときでも地球上

に行きました。0時を過ぎて幼い長男らが寝袋の中で眠ってしまったあとで、ゆっくり妻と話をしようと思ったとき、妻は、明日のために片付けを始めたのです。

そのときほくは、それまでの自分の、滅多に起こらないことは価値が高いとか、特別な日にはいつもと違うことをしなければというような漠然とした思いが、薄っぺらなことのように感じました。毎日の生活をしっかりと繰り返すことのほうが、もっとすごいことのように思えたのです。

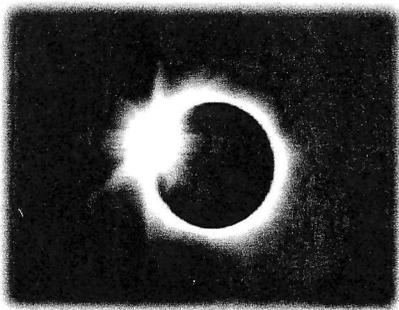
3月29日には、トルコ周辺で皆既日食が起こります。次に国内で皆既日食が見られるのは、2009年7月22日の奄美大島周辺です。見に行くのもよし、行かないのもよし。毎日繰り返し接しているものの中にも、日食のような奇跡や価値あるものを数多く見つけられるでしょうか。

さて、この連載を始めてから、地球は太陽の周りを1周して戻ってきました。この旅におつきあいいただいた皆様に、深く感謝します。



勝村久司 文
text: Hisashi Katsunuma

PROFILE◎かつむらひさし
1961年生まれ。京都教育大学天文学教室卒。大阪府立高校教員。90年に長女を医療事故で亡くし被害や情報公開の市民運動に関わる。著書に『はくの「星の王子さま」へ』(幻冬舎文庫)等。
http://homepage1.nifty.com/hkr



※コロナ/太陽大気の外層で、皆既日食の際に黒い太陽の周りを取り巻く真珠色に淡く輝く部分。温度約100万度の希薄なガスからなる。普段は太陽の明るさにかき消されている。